

地域ぐるみで守ろう… こどもをまもるいえ



警察のシンボルマーク「ミーポくん」が目印です

近年、子供たちが学校の登下校時や放課後に「痴漢、たかり、誘惑未遂などの行為」が各地で発生しています。市より子供たちが事件に遭遇したときに、駆け込み一時的に保護するための『こどもをまもるいえ』の設置が計画されました。

海蔵地区においても、青少年育成協議会を中心として、小学校PTA、子供会育成者連絡協議会の方々の推進運動により、一般家庭、商店、事業所などのご理解を得て、地区内二百箇所余りの場所に『こどもをまもるいえ』が設置されました。

地区内の方々の暖かい気持ちや子供たちを事故から守る運動につながっていくものと思います。

「海蔵の寺社」シリーズ その⑧ “御厨飽良河神社”

西阿倉川字北山、市立海蔵保育園の西に鎮座します御厨飽良河神社を紹介します。

御厨とは、古来伊勢神宮に五穀(米、麦、粟、きび、豆類)を貢納する荘園であったことを意味します。

祭神は、素盞鳴命・天児屋根命・大山祇命で、喜多嶋弘垂氏が宮司であります。

当神社は、明治四〇年に西阿倉川所在の多くの神社を合祀したものです。

浄覚寺の由緒には左記の木札があります。

「観請由來は午頭天王竺主貴常を以て海蔵山浄覚寺三宝の守護神也」

とあります。慶長六(一六〇一)年村民が尊崇して産生神として現在の地に祀り明治七年北山社と改称しました。北山社は元來館氏の守護神でしたが、村民の尊崇を受け

て西阿倉川の氏神となったものと思われれます。また明治二二年記録の社伝には、

「御厨飽良河神社の由来

明治二十一年戊子年四月二十三日社名改称願、伊勢国三重郡西阿倉川村字北山鎮座、村社北山神社、祭神須佐之男命御厨飽良河神社」

と改称した様子がうかがわれます。

三月の御鎌祭り、七月の夏祭り、十月の大祭には幟を立て提灯に灯がともし、氏子によって盛大な祭礼が営まれています。

なお、十月の大祭には第二次世界大戦前やその戦後間もない頃まで青年団が行っていた伝統ある獅子舞も最近では、保存会の皆様により引き継がれ、奉納されています。

私たちの街ではこんなことやっています

西阿倉川老人クラブ(若生会)は廃品回収に汗かかっています。

十五年もの長い間、継承されている西阿倉川老人クラブの廃品回収の様子を一度見たいものだと思っていたところ、はからずも会長さんからお知らせで取材に伺うことができました。



広い倉庫に山と積まれた廃品を会長さんの指揮により集会所の広場まで出され、トラックの積み込み作業は全員で手送り。

年齢を感じさせないパワーには驚かされました。

会員が持ち寄る廃品は、ダンボ

ール・新聞・雑誌・布・アルミ缶など。

年五、六回の回収。一回の回収量は約四トンほどとなります。

地域社会において、環境保全のキーワードとなる「ごみ減量とリサイクル活動」に、積極的に参加するシルバーパーパワーは、高齢化社会に求められている未来像ではないでしょうか。

活動に対して、「みんなの意気込みが一つになるときに、感謝の気持ちと生きがいを感じます」と会長さんのお言葉でした。

編集後記

市制百周年をテーマとして、とらえてみました。百年前の人々が、現在の私たちの生活環境を想像することはとても出来なかったことでしょう。明治以降の社会変貌はめまぐるしく、私たちにとても百年後の社会は、どのようなものか夢物語でしかありません。

しかし、人間の優しさ、思いやりだけは、いつまでも変わらぬ素晴らしいものです。

広報部員一同

